

白保リゾート計画 不許可求め意見書

県に自然保護団体

【那覇】世界自然保護基金(WWF)ジャパン(東京都、徳川恒孝会長)は石垣市白保で計画されているリゾートホテル建設計画について6日、県庁で開発許可申請を認めないよう求める意見書をWWFサンゴ礁保

護研究センター長の鈴木倫太郎氏が、嘉川陽一土木建築部建築都市統括監へ手渡した。翁長雄志県知事宛て。WWFジャパンは意見書の中で、計画地は「WWF南西諸島生物多様性評価プロジェクト」で評価の高い



地域とされていると指摘するとともに、世界的に絶滅

リゾートホテル建設が予定されている白保の海岸(WWFジャパン提供)

が危ぶまれるアオサンゴの世界最大級の群集が存在すると訴えた。また、計画地を含む石垣島東海岸は、絶滅危惧種のウミガメ3種の産卵が確認されており「ウミガメ保護にとっても重要な海岸」と指摘し、現在の同計画の問題点として▽排水の地下浸透処理による影響▽ホテルの明かりによる

ウミガメの産卵への影響▽宿泊客によるサンゴの踏み荒らしや熱帯魚の違法採集の恐れ—の3点を挙げ、実効性ある自然環境への保全策や地域住民や関係者の合意がないまま行う開発申請を許可しないことを求めた。

鈴木センター長は「アオサンゴが目の前の開発はサンゴの群集に影響が出る恐れがある」とし、自然環境への悪影響について懸念を表明した。